

【現代語訳】

資季大納言とか申し上げた人が、具氏宰相中将に会って、「そなたが質問なさるようなくらいのことは、どんなことでもお答えできるでしょう」とおっしゃったところ、具氏が、「どうでしょうか」と申し上げなさったので、(資季が)「それならば、賭けをして競い合いをなさいます」とおっしゃられて、(具氏が)「学問的なことは、少しも学んでおらず知りませんので、尋ね申し上げることもありません。何となく取るに足りないようなことの中で、はつきりしないことを尋ね申し上げます」と申し上げなされた。

「ましてや、身近にあるつまらないことは、何ごとであっても説明申し上げます」とおっしゃられたので、近習の人々や侍女たちなども、「おもしろい競争ですね。どうせやるなら、御前で争われるのがよい。負けてしまった人は、ご馳走を準備しなければならぬ」と決めて、御前に召し出して争わせたところ、具氏は「幼いころからよく聞きましたことですが、その意味がわからないことがございます。『むまのきつりやうきつにのをかなくぼれいりくれんとう』と申し上げることは、どんな意味がございませうか。承りませう」と申し上げなされると、大納言入道は、ばたつと詰まってしまう、「これは取るに足らないことだから、言うまでもありません」とおっしゃられたのを、「そもそも難しいことについては私は知りません。取るに足らないことを尋ね申し上げましよう」と決め申し上げましたよ」と申し上げなされたところ、大納言入道は負けになって、(負けた)罰を盛大になさったという。